

## 「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國(写真)

日 時：2018(平成 30)年 5 月 20 日(日) 9:30~16:00

気 象：天候=晴 (12 時の気温：16℃)

活動エリア：45 林班ろ(モニタリング調査区の周辺)

活動内容：林床整備(落枝や切り放し残置木の処理=玉切りと棚積み) など

里道・作業道の拡幅・補強、自然歩道の巡視と倒木処理 など

参加者：泉家恵子、斧田一陽、倉谷邦雄、後藤和子、杉本佳英、武田壽夫、豊田哲也 中村賢三、

宮本 廣、山 國

(計 10 名)

### <心強い新入会員>

JAC 広島支部から移籍されたばかりの豊田氏が当会にも参加、広島でも自然保護活動に取り組んでおられたとのことで、一同、願ったり適ったりの大歓迎。デビューに相応しい青空の下、絶好の作業日和である。

山への途次、随所に「うなぎの森 植樹祭」の幟と交通整理の人達を見る。何でも大阪府の神峯山自然園の森で海を育てようとの活動らしく、「森が元気」は海の元気の素、行事の名は『山の芋が(淀川の)鰻に』の洒落?。行き交うグループには家族連れ、ポンポン山へのハイカーも多い。

伝達 2 件 ① (公財)大阪みどりのトラスト協会の会報『みどりのトラスト』掲載の活動地紹介記事を作成中、

② (公社)大阪自然環境保全協会の本山寺環境保全地域に関する講演会の紹介

助成金は無事入金、革手袋などの消耗品が補充され、早速、古いのを取り替える。さらに活動地一帯の新しい保全地地図(\*)づくりも披露され、一同、勇躍?作業地へとスタート。今日は林床整備、里道・作業道の修復、山頂部の倒木処理と『みどりのトラスト』稿の写真撮り、の三組となる。

(\*)作業地全域に里道・作業道と分岐、作業ポイントを描き込んだもので、完成次第披露の予定

### <今日も手応え十分、疲れも十分>

調査区②は尾根上で左右は谷への斜面、毎度々々の足下注意で落枝や残置木を玉切り、棚積みして行く。20×50m=0.1ha のエリアは綺麗に出来た。道の補修は路肩が崩れ、狭くなっている箇所が目につく。杭を打ち込む適地が少なく苦勞するが、長尺の倒木を見つけて補強材に利用、25m の補修を完了。

山頂部では国有林脇の民地からの倒木が自然歩道にズリ落ちる懸念がある。国有林にも根起しの倒木が残る。大木揃いで一本の年輪は 40 本を超えていた。豊田新会員も加わり一日がかりで 5 本を玉切り・棚積み。さともり会報掲載用の写真撮りは天狗杉手前のモミの巨木、その胸高幹回りは優に 3m を越える。

### <山の花々：美濃のシバザクラ・オダマキ、本山寺山ではミヤコアオイ>

郡上八幡の井上会員からは「オダマキ」と「シバザクラ」の便り、今年は 5 月中旬が盛りとのこと。本山寺山では「ミヤコアオイ」。花は小さく可憐、下向きで恥らうように咲いている。(←森林インストラクターでもある豊田新会員の説明)。(本

文 以上)

【参加 10 名】



←後列右から：豊田、斧田、泉家、後藤、中村、武田

←前列右から：宮本、山國、倉谷、杉本

【モミの巨木、胸高幹回りは 3m 超】



【山頂付近の倒木—三本が写っている】



【台風の置土産を片付ける(山頂付近)】



【鹿にも負けず、元気に育つモミの幼木】



【道の補強—路肩が崩れた作業道】



【路肩に杭を打ち、補強材を積み上げる】



【補修された道を踏んで帰途へ】



【作業前の山腹(調査区付近)】



【棚積みへと運搬中】



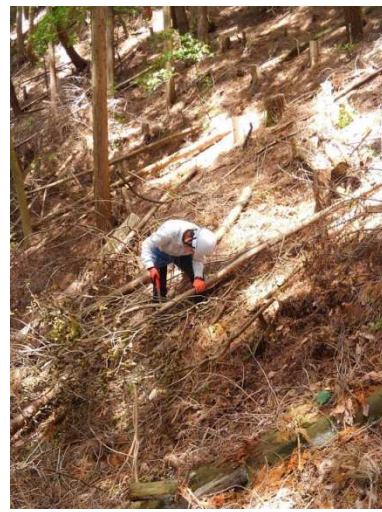
【作業後】



【作業着手】



【作業中—玉切り作業】



【作業後—随所に棚積みが見える】



【活動地に設置を始めた指道標】



【シバザクラとオダマキ】



【ミヤコアオイ】

